



関西学院大学  
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

## UNHCR 難民映画祭を関学で開催

10月25日・26日に日本初公開を含む4作品上映  
関学オリジナル企画 - 難民問題への理解が深まるトークセッションあり

報道各位

関西学院広報室

関西学院大学と国連難民高等弁務官（UNHCR）は10月25日（土）・26日（日）、難民をテーマにした映画を上映する「UNHCR 難民映画祭」を関西学院大学西宮聖和キャンパスで初めて開催します。

本学での開催については、総合政策学部3年生の松浦果穂さんが、大学やUNHCRに働きかけたことがきっかけとなり、実現しました。松浦さんは2年生の時、大学の「国連ユースボランティアプログラム」に参加し、ボスニア・ヘルツェゴビナに約6カ月派遣され、国連ボランティア計画（UNV）の広報活動などに従事しました。松浦さんは、これまで東京を中心に開催されていたUNHCR 難民映画祭を、難民を対象にした入試制度（※）がある関学大で開催したいと考え、帰国後に大学宗教主事の舟木讓・経済学部教授に協力を仰ぎ、UNHCRに関学での開催を持ちかけました。

松浦さんは「これをきっかけに関西でも難民問題に関心を持ち、理解する人が増えてくれれば嬉しい」と話し、当日の会場誘導など運営に携わる学生ボランティア約30名を募集したりするなど準備に関わっています。

法務省のデータによると、2013年の日本の難民認定申請は過去最高の3,260人で、うち難民に認定されたのは6人。当日は、映画上映後にトークセッションが企画され、難民・国内避難民、無国籍者などの問題に対する理解を深められる機会が設けられています。

各位ご多用とは存じますが、ぜひご取材賜りますようお願い申し上げます。

※関西学院大学は2006年、UNHCR 駐日事務所と協定を締結し、日本で初めて「難民を対象とする推薦入学制度」を設けました。2007年から今年までの間に15人の難民入学生を受け入れ、学費の全額免除や生活費の支援など学業に専念できる環境を提供しています。現在は東京の大学でも同様の制度が導入されるなど、難民に対する支援が広がっています。

（次ページに続く）



関西学院大学  
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

## 第9回 UNHCR 難民映画祭（会場：関西学院大学）

- 日時：2014年10月25日（土）・26日（日）
- 場所：関西学院大学西宮聖和キャンパスメアリー・イザベラ・ランバスチャペル（山川記念館2階）
- 主催：国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所
- パートナー：特定非営利活動法人国連UNHCR協会、独立行政法人国際協力機構（JICA）
- 兵庫県西宮上映共催：関西学院大学
- 入場料金：無料（会場募金にご協力ください）  
※入場は先着順（各回1時間前から会場にて入場整理券を配布）

### ●10月25日（土）

#### 12時～映画『ボーダー～戦火のシリアを逃れて～』（日本初公開）

上映前に主催者の UNHCR 駐日事務所のマイケル・リンデンバウアー駐日代表、共催者の関西学院大学の神余隆博副学長、パートナーの国際協力機構（JICA）関西から業務第二課/国際防災研修センター(DRLC)の酒本和彦課長による挨拶があります。 ※上映後のトークセッションはありません

#### 15時～映画『無国籍を生きる』（日本初公開）

<トークセッション>

- ・中尾秀一氏（アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部・支部長代行）
- ・落合直之氏（国際協力機構（JICA）社会基盤・平和構築部参事役）

作品中の難民と同様に日本におけるインドシナ難民2世にも無国籍問題があり、帰化やビザ取得の問題などについて話をします。

### ●10月26日（日）

#### 12時～映画『スケーティスタン』

<トークセッション>

- ・若松英治氏（国際協力機構（JICA）アフリカ部、計画・TICAD 推進課主任調査役）

JICA アフガニスタン事務所への赴任経験を通じて、映画『スケーティスタン』の舞台であるアフガニスタンの状況について話をします。

#### 15時～映画『シャングリラの難民～幸福の国を追われて』（日本初公開）

<トークセッション>

- ・山内麻紀子氏（アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部・職員（広報担当））
- ・リングホーフアー・マンフレッド氏（大阪産業大学教授、哲学博士）

日本での難民の定住状況について、作品中のブータン難民のアメリカでの定住と比較して話をします。

※UNHCR 難民映画祭の関西学院大学での実施に関する問い合わせは、関西学院大学人権教育研究室（0798・54・6720）までお願いします。